

仕様は？ 性能は？ コストは？

ひと目で分かる

「脱臭装置」
選択ガイド

2004

目次

ひと目で分かる「脱臭装置」選択ガイド

第1章 におい対策をお考えの方に

- 1.1 はじめに 03
- 1.2 本書の使い方 04

第2章 お店にあった装置選び

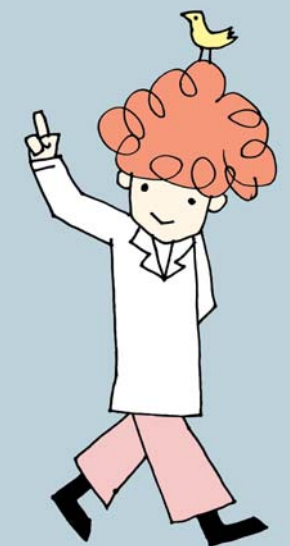
- 2.1 覚えてほしいキーワード 06
- 2.2 お店の状況 09
- 2.3 希望条件 11

第3章 いろんな装置を比べてみましょう

- 3.1 掲載装置一覧 18
- 3.2 表示項目の見方 22
- 3.3 装置情報 24

参考資料

- 1 評価チャートの算出方法 82
- 2 用語の解説 84
- 3 関連情報 87



におい対策をお考えの方に〔第1章〕

1.1 はじめに

食べ物を調理する際の油っぼいにおい、ごみ置場から漏れ出す生臭いにおい、工場排水から漂う卵の腐ったようなにおい…。日々の事業活動においては、様々な場面でにおいが発生しています。そのにおいが、実は近隣の人々を悩ませているかも…と考えたことはありませんか。実際、全国の自治体に寄せられるにおいに対する苦情件数は近年増加しており、飲食店や食料品製造工場に対する苦情だけ見ても、全国で1,400件にのぼります(平成14年度悪臭防止法施行状況調査)

中小規模の事業場においては、経済的にもスペース的にもなかなか対策が難しいのが現状です。また、事業者の方は自分の出すにおいに慣れてしまっていますので、苦情を訴える方とのにおいに対する意識のずれも、問題の解決を長引かせる要因の一つとなっています。

本書は、なるべく低コストで省スペース、かつメンテナンスも容易な脱臭装置を募集し、その情報を紹介することで、事業者の方の装置選択の手助けとなることを目的として作られました。また、低コスト・省スペース型脱臭装置に対するニーズを掘り起こすことで、メーカー側の技術開発や改善が促進されることも狙っています。様々なメーカーから応募された脱臭装置は、学識経験者による検討会で機能や項目別に評価されています。また、装置を絞り込む上で参考となるフローや選定時に注意すべきポイントも付けました。

とはいえ、事業場によってにおいの状況は千差万別です。最終的には、メーカーと事業者との十分な確認・打ち合わせが、失敗しない装置選びの基本となります。本書に載せられている脱臭装置だけがすべてではありませんので、装置選びの際のガイドブックとして本書をご活用ください。

脱臭装置も機械ですから、メンテナンスしなければ性能も落ちるし、当然故障することもあります。第3章の装置情報に掲載した実測調査結果とメーカー提示情報とを比べると、実際の事業場では、メーカーの示す脱臭性能が必ずしも発揮されていないことが分かります。装置を設置すれば終わりではなく、あとの維持管理や保証体制についても十分にメーカーに確認し、良い装置と長く付き合うことで、地域に根ざした快適な事業経営を目指しましょう。



To those who consider odor control

1.2 本書の使い方

事業場(工場、飲食店など)から出るにおいを減らすには、一般的に、以下の手順に従って進めていくことになります。まず、においを出さない工夫をしましょう。作業工程の見直しや使う器材、材料の変更、日々のこまめな清掃の実施、排出口の変更などにより、周辺に対するにおいの影響が大きく軽減されることがあります。それでもにおいが減らない場合には、次に脱臭装置の設置を検討しましょう。まずは、事業場の現在の状況(においの質、強さ、排出ガスの量、設置可能なスペースなど)を把握し、導入可能な脱臭装置をいくつかに絞り込みます。候補を選んだら、脱臭装置メーカーに連絡をとり、設置内容や見積りの確認をします。1社だけでなく複数のメーカーに対して行い、最も条件に合うものを選びましょう。

STEP 1

においを出さない工夫

脱臭装置を導入する前に、できるだけにおいを出さない工夫をしましょう。まず、どこからどういった状況でにおいが発生しているかを調べるのが大切です。

作業工程の改善(加工温度などの条件の変更、発生源に蓋をしてにおいを閉じこめる)

原材料の変更(できるだけにおいの発生が少ないものを使う)

清掃の徹底(排気ダクトの清掃、床や壁面の清掃、においの発生源となるようなものを建物のまわりに置かない、事業場全体の美化による雰囲気作り)

排出方法の変更(排出口の向きや高さの変更、においが漏れないような適切なダクトワーク)

STEP 2

脱臭装置導入のための現状把握

においの発生する工程は?

においの質(種類)は?

においの強さは?

排出ガスの流量は?(ファンの排気能力など)

排出ガスの温度は?

排出ガスは水分や油のミストなどを含んでいるか?

においの発生する時間は?(連続的か短時間か?)

設置スペースは?

においの強さや排出ガス量など測定しないと正確に分らないものについては、ここで無理に決める必要はありません。メーカーが測定して判断してくれる場合もありますので、相談してみましょう。



STEP 3

脱臭装置選定

本書を参考に、STEP2の条件に合った脱臭装置を複数選びましょう。完全に条件に一致する必要はありません。排出ガス量などは、ある程度メーカーが柔軟に対応しますので、おおよその風量をご覧ください。

脱臭技術の進歩は日進月歩であり、本書に掲載の装置以外でも適用可能なものがあるはずなので、幅広く情報収集することが必要です。その際にも、本書に掲載されている項目を参考に比較してください。

同業者がどのような装置を設置しているかも参考になります。

ある程度装置を絞ったら、装置メーカーに連絡し、見積もりを取りましょう。その際、装置設置費用だけでなく、設置後のメンテナンス内容やランニングコストなども確認してください。メーカーがどこまで脱臭効果を保証できるかも確認することが大切です。できれば、実際に稼働している装置を見せてもらうと良いでしょう。脱臭効果はもちろんのこと、運転音や振動についても確認する必要があります。

脱臭装置の選定は、十分に納得して行いましょう。適切な脱臭装置を選ばないとにおいが取れないこともあり、安易に値段だけで判断してはかえって高つくことがあるので、注意してください。

STEP 4

脱臭装置の設置

脱臭装置の設置により、においが低減していることを確認しましょう。

設置後の維持管理は確実にを行うようにしてください。せっかく脱臭装置を設置しても、維持管理が不十分なために本来の効果を発揮していないケースが多くあります。

